



研究会・研修会等への  
報告者・講師の派遣  
(平成30年1月～3月)

○「美瑛町青色申告会札幌研修  
会」

主催 一般社団法人 北海道地  
域農業研究所

とき 平成30年1月24日

テーマ 経営基盤強化の方策を考  
えてみよう

講演 黒澤 不二男  
(当研究所・顧問)

○「第一二二回村づくり・人づ  
くり冬季報徳研修会」

主催 一般財団法人 北海道報  
徳社

とき 平成30年2月1日

テーマ 報徳仕法の近代性・二宮  
尊親と北海道開拓

講義 黒澤 不二男  
(当研究所・顧問)

### 人事異動

#### △新任▽

研究参与 及川 敏之 (3月1日付)

#### △退職▽

研究参与 富澤 哲 (3月31日付)

#### △昇任▽

事務局長 片岡 省二 (4月1日付)

(前 研究部長)

研究部長 及川 敏之 (4月1日付)

(前 研究参与)

## 第28回（平成30年度）通常総会の開催

開催日時 平成30年5月31日（木） 午後1時より

開催場所 ホテルモントレ札幌 1階 ケンジントン  
札幌市中央区北4条東1丁目

### 提出議題

議案第1号 平成29年度事業報告並びに計算書類について

議案第2号 平成30年度役員報酬額について

議案第3号 平成30年度会費の賦課及び徴収方法（案）について

議案第4号 役員を選任について

## 通常総会 特別講演会の開催

開催日時 平成30年5月31日（木） 午後2時30分より  
(通常総会終了後)

開催場所 ホテルモントレ札幌 2階 ビクトリア  
札幌市中央区北4条東1丁目

講演テーマ 「食と農の未来を考える  
－新潮流と変わらぬ本質－」(仮題)

講師 福島大学 教授 生源寺 真 一 氏  
東京大学 名誉教授

◆二月に岩見沢市で開催した地方講演会を収録。北大の東山准教授は、メガFTA時代を迎えるに当たり、「国民合意にもとづく農政」への転換の重要性を強調された。

ホクレン農総研の仁平特任技監は、豊富な現地調査結果を基に、道内の水田利用の地域性には適地適産の合理性があり、今後の水張り面積の維持・拡大意欲には地域差が見られること、また、水稲供給力の維持・確保には省力技術の展開が急務であると解説された。

◆「力強い北海道農業の構築に向けて」では、四人の道外の学識経験者の提言を連載。第一回は斎藤修千葉大名誉教授です。昔から農畜産物の加工に取組んできた北海道農業。「今後、家族経営は集約的な品目に注力し原料農産物は管理作業中心となるため、原料農産

## DATA FILE

### 関連事項 / DATA

北海道大学 大学院農学研究院  
〒060-8589  
札幌市北区北9条西9丁目  
☎ 011 (716) 2111

ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所  
〒060-0906  
札幌市東区北6条東7丁目375番地  
☎ 011 (742) 5433

ホクレン農業協同組合連合会  
〒060-8651  
札幌市中央区北4条西1丁目3番地

北海道農政事務所  
〒064-8518  
札幌市中央区南22条西6丁目2-22  
エムズ南22条第2、第3ビル

鷹栖町役場  
〒071-1292  
上川郡鷹栖町南1条3丁目5番1号  
☎ 0166 (87) 2111  
Fax 0166 (87) 2196

一般社団法人 北海道地域農業研究所  
〒060-0806  
札幌市北区北6条西1丁目4番地2  
ファーストプラザビル7階  
☎ 011 (757) 0022  
Fax 011 (757) 3111  
HP : <http://www.chiikinouken.or.jp>  
E-mail : [office47@chiikinouken.or.jp](mailto:office47@chiikinouken.or.jp)

物の農作業のコントラ事業が拡大し、食品加工メーカーと産地との関係が一層深化する」。北海道農業の将来像を大胆に提起いただいた。◆四月から生乳の流通改革がスタート。ホクレン酪農部より新制度と指定団体の役割を解説いただいた。

◆今号からのエッセイの執筆は、北海道農政事務所の蛭名理恵さん。

「北海道にはたくさんのごちそうがないもの」、気づいていない魅力、たくさんの可能性があるはず……。蛭名さんが地域で見つけた宝物(者)を四回に渡って紹介いただきます。

◆平成の米騒動(一九九三年)時の食料自給率は何%?食料自給率をめぐる諸問題や食料主権の問題への見解を開陳した「所長の直

言」。半世紀に及ぶ「筋金入り」の食料の海外依存路線に終止符を「打ちましよう」。

◆多くの感動をくれた平昌五輪。中でもスピードスケート女子五〇〇m。レース直後、金銀に輝いたライバル同士が互いに讃え合う姿が、爽やかでした。

(入江 千晴)